

「学んだことを活かして」 大学 薬学部 2学年

私は薬学部で学びを深める中で、日々充実した学生生活を送っています。授業や実習では膨大な知識を身につけることが求められ、時に困難さを感じることもあります。しかし同じ目標を持つ仲間と励まし合い、教員の方々から丁寧な指導を受けることで、少しずつ薬剤師としての基礎を固められていると実感しています。また、サークル活動や文化祭にも参加し、人とのつながりの大切さを学ぶことができました。先輩や後輩との縦のつながりも学校生活を支える大切な要素だと感じています。後輩へのアドバイスとしては、「一つひとつを丁寧に積み重ねること」です。薬学の学びは一見複雑ですが、基礎を理解すれば応用も自然と身につきます。逆に基礎をおろそかにすると後に苦労することになります。また一夜漬けでは身につかないため、毎日の復習を大切にすることが必要だと思います。近頃特に感じるのは、医療を取り巻く環境が日々変化しているということです。高齢化社会の進展や新しい治療薬の登場により、薬剤師に求められる役割も広がっています。その中で私は、知識を持つだけでなく患者さんの気持ちに寄り添える薬剤師になりたいと考えるようになりました。経済的な安定だけを優先するのではなく、しっかりとした知識を身につけ、病院などで地域医療に貢献したいと思います。将来の夢は、患者さんに安心して相談していただける薬剤師になることです。服薬指導や健康相談を通じて生活の質を支えられるよう、専門的な学びとともにコミュニケーション能力も磨いていきたいと考えています。最後に、長谷育英奨学会への期待について述べます。経済的支援は勉学を続ける上で大きな力となり、安心して学びに打ち込むことができます。奨学生としての自覚を持ち、社会に還元できる人材へと成長することが恩返しになると考えています。夢である薬剤師を目指し努力を続け、多くの学生が希望を持てるような存在になりたいです。